

神奈川からがんをなくす会(ACクラブ)

総 括

昨年度の新入会員は残念ながら零であった。検診項目別の会員の内訳は表1に示すように現時点では男性の103名が消化器と肺の検診が最多であるが女性ではやはり消化器が主流で他は女性特有の子宮がん、乳がんの組合せが75名に及び、他の項目と併せて113名である。男性に多い肺がん検診を希望する女性はその1/3にすぎない。肺がん単独では男性の24名に対して女性では3名のみである。因みに消化器単独では夫々4名づつである。ここで消化器検診とは胃の造影剤によるX線検査、大腸は便の潜血反応、腹部の超音波検査をいう。また男性には前立腺がんのスクリーニングとしてPSAを行う。肺がん検診としてはこの会の発足当時は年2回の単純X線撮影と喀痰細胞診であったがCT検査の導入以来胸部単純撮影と交互に年一回となるように検診日程を組んでいる。

新会員の漸減であるが広報誌としてのマリンプールは発行しているものの新規な会員への勧誘や紹介を行っていない。

消化器がん検診

がん検診としては胃X線検査、腹部超音波検査、便潜血反応であり、夫々、胃、食道、肝臓、胆嚢、膵、腎のがんに対して、また便潜血反応は大腸がんに対する一次検査の役割をもつ。

本年度の消化器検査受診者は212名で男性107名、女性105名である。このうち胃X線検査を受診したのは男性73名、女性70名で精検受診者のなかから胃ポリープが男性8名、女性28名、胃潰瘍11名、十二指腸潰瘍9名(内訳は表1、2、3)である。胃がん発見はなかった。超音波検査では、表4の如く197名で男性98名、女性99名であった(表4)。

便潜血反応による大腸がん検診は188名の受診者で要精検者は11名、このうち大腸ポリープ3名、大腸がん1名が発見された。2名は精査勧告されたが未受診であった(表5)。

肺がん検診

総受診者は234名であり表1の総数244名と10名の差があるが、年2回の検診のうちどちらかが予定期日より都合で遅い時には人数の計測に差異を生ずるものである。前年度入会の3名を除いては全員が継続検診であるので新規の要精密検査は少数である。単純撮影は極く軽度の炎症と思われるような所見に施行している。CTと単純X-Pとの合併の検診がやや漸減し、単純X-P単独がやや漸増している。これは大震災以降の放射線の影響に対する知識の普及の結果かも知れない。このことについては本誌の前号にて言及している。表8のように本年度はがん発生はなく異常所見以外は経時的にみて確定している診断名である。疑問所見とは所謂GGOとされる陰影および微細な陰影に対して暫定的につけられるもので数ヶ月単位または年に及ぶ間隔での経過をCTにより観察している。通常は単純X-Pに於けると同

様に3ヵ月、3ヵ月、6ヵ月、12ヵ月としている。細胞診では表7の如くにすべてAとB区分であった。

乳がん検診

乳がん検診は平成17年度より担当者が変わり、それまでの視触診に毎年マンモグラフィ(以下MMG)3方向併用より、現代の標準より更に精度を上げるべく、年齢に40歳以上は隔年にMMG2方向(MLO、CC)とその間の年には超音波(以下US)を挟む方法を原則とするように変更した。毎年3方向はX線被曝量が多い割に有効性が高いとは思われないし、MMG高濃度者には不適であるので、精度が急速に進歩したUSを隔年に挟む方法が両者の欠点を互いに補い、より合理的と考えたためである。無論年齢、MMG、USの撮像効果を配慮した選択が可能である。MMGは担当者が読影し、読影有資格者によりダブルチェックされ、USは担当者自身が行っている。受診者は前年度の97名より2名減り95名で新規加入者はない。リピーターのみなので発見乳がんは担当者が代わってから無効。現在の乳がん検診は大変進歩した方式で各検診機関で行われているので、ACクラブの存在意義は、乳がんでは大きいものではない。

子宮がん検診

平成23年度のACクラブの女性受診者数は113名であり、その中で子宮頸がん検診受診者は85名(75.2%)、子宮体がん検診受診者は70名(61.9%)であった。子宮体がん検診を単独で受診する方はおらず、すべて子宮頸がん検診との併用で受診されることから、ACクラブの女性会員は一般の施設検診者と異なり、高率に子宮体がん検診を希望していることが推察される。年齢的に、ACクラブの女性会員のほうが、一般の施設検診者より高齢の方が多い(60歳代30.1%、70歳代46.9%、80歳代7.1%)こともその理由の一つと思われる。

平成23年度の検診者は、子宮頸がん検診、体がん検診とも要精検と判定された方が1名ずつで、精検の結果は、子宮頸がん検診要精検者は軽度異形成、子宮体がん検診要精検者は内膜増殖症であり、がんの発症は見られなかった。

平成23年度より、子宮頸がんに対するHPVテスト(ヒトパピローマウィルステスト; Hybrid capture II法)が導入され、希望で検査が受けられるようになった。実際には85人にHPVテストが施行され、1人が陽性であった。陽性者に対しては、二次検診として精密検査(コルポスコピー、組織診断)が施行されている。

一つ気になることは、平成23年度に新入会された人は0であり、受診者数は前年度(平成22年度116名)から3名減少している。増加に向けてのさらなる努力が必要と思われる。

関係の集計表は109頁に掲載